宮地エンジニアリンググループ株式会社

2027年3月期第2四半期(中間期)
決算補足説明資料

2026年11月27日

目次

宮地エンジニアリンググループ株式会社

Ⅰ. 2027年3月期第2四半期決算 P.2

Ⅱ. 2027年3月期業績予想と中期経営計画の進捗 P.12

Ⅲ. 次期中期経営計画に向けて P.30

Ⅳ. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について P.32

Appendix 1 － 株主・投資家との対話の実施状況等について P.38

Appendix 2 － 会社概要 P.40

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

Ⅰ.2027年3月期第2四半期決算

2027年3月期第2四半期トピックス

宮地エンジニアリンググループ株式会社

◆ 当期におけるわが国経済は、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要があるものの、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されている

◆ 公共投資は引き続き堅調に推移していくことが見込まれているものの、当社グループの主力である橋梁事業においては、新設関連で1,850億円、大規模更新・保全関連で1,950億円（いずれも当社推定値）と、昨年度の規模を若干下回る見込み

◆ このような厳しい事業環境ではあるものの、受注高は大規模更新・保全関連の大型案件などを受注できたことにより、263億58百万円（前年同期比10.2%増）

◆ 売上高は、手持ち工事が概ね順調に進捗したものの、前年同期に比べて大きな売上高が上がる案件が少なかったことなどの影響により、241億45百万円（同14.7%減）

◆ 損益は、売上高の減少に加えて前年同期に比べて設計変更などによる改善が十分に織り込めなかったことの影響により、期首の厳しい予想は上回ることができたものの、営業利益は13億60百万円（同52.2%減）、経常利益は15億61百万円（同47.9%減）

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

2027年3月期第2四半期決算サマリー

宮地エンジニアリンググループ株式会社

大規模更新・保全関連の大型案件の受注により、受注高は前年同期を上回る
売上高の減少等により減収減益となるも、各利益は期首予想を上回る

（百万円）

	26/3期2Q		27/3期2Q		
	実績	前年比	期首予想	実績	前年比
売上高	28,307	▲21.6%	25,000	24,145	▲14.7%
営業利益	2,847	▲36.4%	550	1,360	▲52.2%
経常利益	2,996	▲35.2%	630	1,561	▲47.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,801	▲20.0%	710	1,083	▲39.9%
受注高	23,909	19.4%	—	26,358	10.2%
受注残高	108,098	8.4%	—	108,627	0.5%

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主要な売上工事(1)

新設関連工事

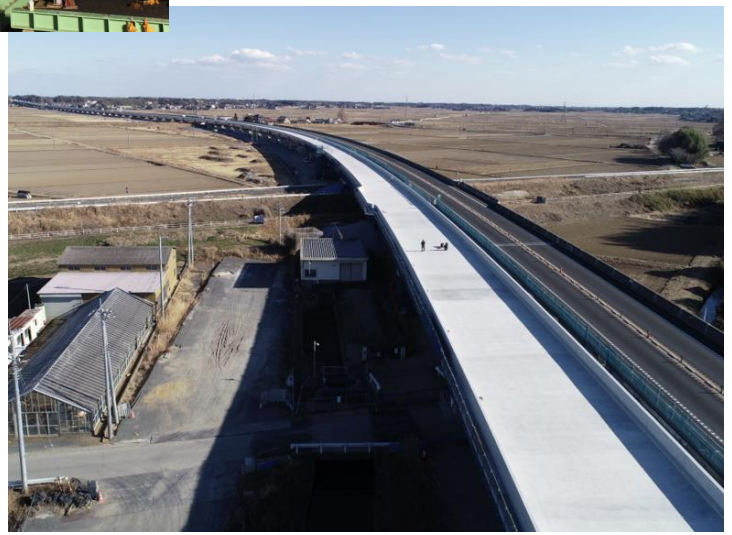


第二京阪道路
門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事
西日本高速道路株式会社

川崎港臨港道路東扇島水江町線
主橋梁部上部工事(その2)
関東地方整備局



首都圏中央連絡自動車道
飯沼川高架橋(鋼上部工)西工事
東日本高速道路株式会社



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主要な売上工事(2)

宮地エンジニアリンググループ株式会社

大規模更新・保全関連工事



(修)上部工補強工事2－402
首都高速道路株式会社

東北自動車道利根川橋耐震補強工事
東日本高速道路株式会社



佐世保高架橋(拡幅)工事
西日本高速道路株式会社



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主要な売上工事(3)

鉄道関連、特殊建築物工事



令和6年度国道31号呉駅交通ターミナル整備1期工事
国土交通省中国地方整備局
(元請)清水建設株式会社

横浜港新本牧地区護岸(防波)本体工事
国土交通省関東地方整備局



新バスターミナルビル周辺デッキ工事の内、Cデッキ架設工事
神戸市
(元請)株式会社大林組



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主要な受注案件の概要

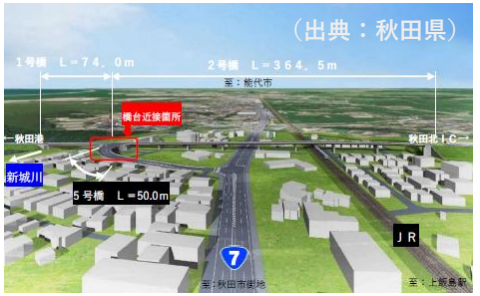
当社グループの主要な受注案件



中国自動車道（特定更新等）久米川橋
他1橋床版取替工事
西日本高速道路株式会社



市道高速1号新黄金オンランプ（西）
工区上部工事
名古屋高速道路公社



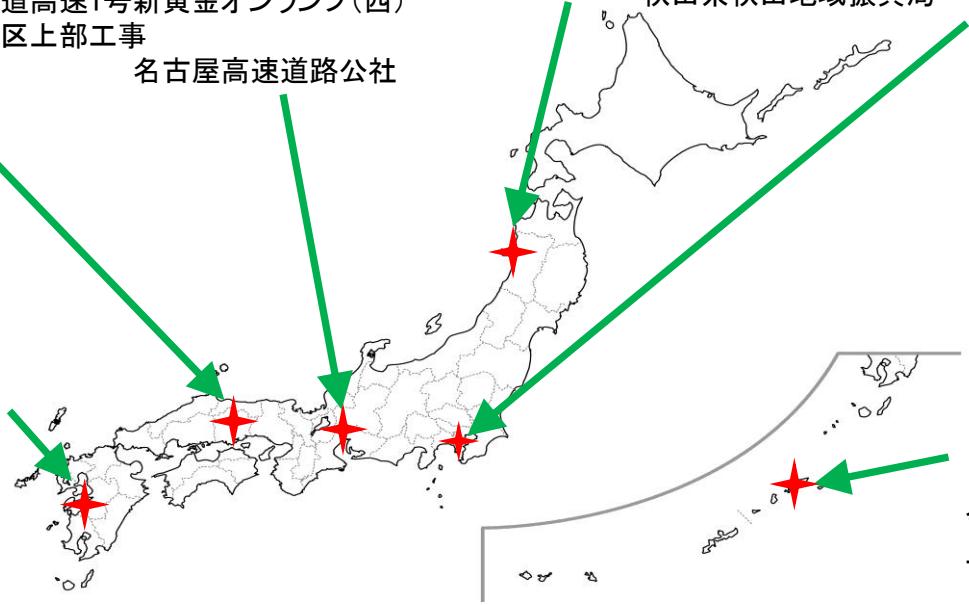
秋田港アクセス道路整備工事08-HF31-N1
秋田県秋田地域振興局



高速都心環状線（築地川区間）
銀座・新富地区擁壁他工事
首都高速道路株式会社

九州自動車道　植木IC～えびのIC間
応急復旧工事（その2）
西日本高速道路株式会社







令和8年度小禄道路名嘉地ONランプ
上部工工事
内閣府沖縄総合事務局
南部国道事務所

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

セグメント別実績（1）

宮地エンジニアリングは減収減益、エム・エム ブリッジは増収減益
大規模更新・保全関連の大型案件の受注により、受注高は前年同期を上回る

（百万円）

	25/3期2Q	26/3期2Q		27/3期2Q	
	実績	実績	前年比	実績	前年比
売上高	36,100	28,307	▲21.6%	24,145	▲14.7%
宮地ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	20,809	20,228	▲2.8%	15,832	▲21.7%
エム・エムブリッジ	15,292	8,082	▲47.1%	8,358	3.4%
その他	2	9	223.5%	8	▲1.1%
営業利益	4,474	2,847	▲36.4%	1,360	▲52.2%
宮地ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	1,853	2,114	14.1%	1,006	▲52.4%
エム・エムブリッジ	2,624	742	▲71.7%	382	▲48.5%
その他	2,057	2,043	▲0.7%	1,191	▲41.7%
受注高	20,022	23,909	19.4%	26,358	10.2%
宮地ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	15,667	14,772	▲5.7%	13,041	▲11.7%
エム・エムブリッジ	4,352	9,127	109.7%	13,309	45.8%
その他	2	9	223.5%	8	▲1.1%
受注残高	99,702	108,098	8.4%	108,627	0.5%
宮地ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	57,453	57,747	0.5%	52,325	▲9.4%
エム・エムブリッジ	42,208	50,309	19.2%	56,287	11.9%
その他	―	―	―	―	―

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

セグメント別実績（2）

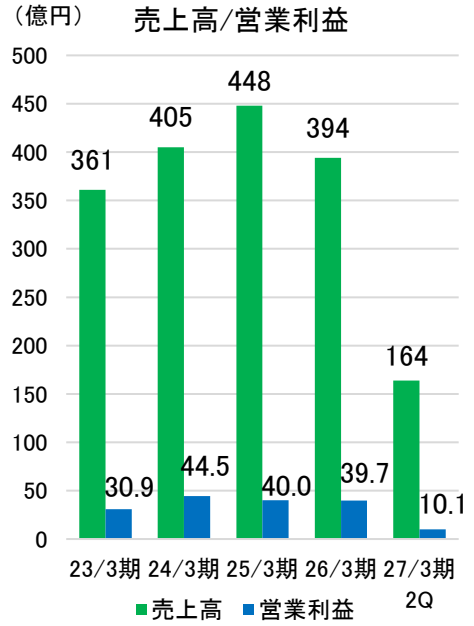
宮地エンジニアリンググループ株式会社

宮地エンジニアリング

受注高は、沖縄総合事務局／令和8年度小禄道路名嘉地ONランプ上部工工事、大鉄工業／山陰本線諸寄・居組諸寄Bo新設などを受注しましたが15.6%減の137.5億円となりました。

売上高は、東日本高速道路／首都圏中央連絡自動車道 飯沼川高架橋（鋼上部工）西工事、沖縄総合事務局／令和5年度小禄道路橋梁上部工(P40～P45)、下部工(P40～P44)工事などの進捗により164.1億円となりました。

営業利益は、生産効率化や工事採算性向上に取り組んだものの、設計変更などによる改善が十分に織り込めず、前年同期比52.4%減の10.1億円となりました。



今後の取り組み

新設事業から保全事業までバランスの良い受注と経営資源の投入

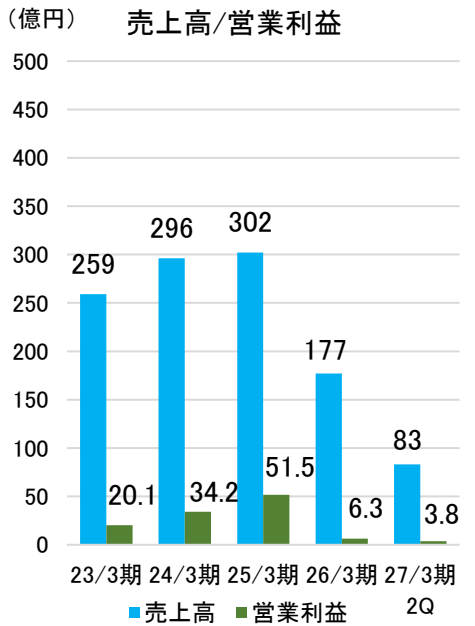
物価上昇や労務費の増加などで実質的な発注量は減少傾向にあるものの、強い経済を実現する総合経済対策の推進により新設関連の回復が期待されます。また、民間工事も数多く計画されていることから安全・安心で高度な技術力を有する当社が活躍する余地は多くあると考えております。当社は、持てる経営資源を新設関連工事、大規模更新・保全関連工事、民間工事(鉄道関連、大空間・特殊建築物など)に適切配分した最適経営を目指してまいります。

エム・エム ブリッジ

受注高は、首都高速道路／高速都心環状線（築地川区間）銀座・新富地区擁壁他工事、西日本高速道路／久米川橋床版取替工事など、大規模更新・保全関連の大型案件を受注したことにより、前年同期比45.8%増の133.1億円となりました。

売上高は、西日本高速道路／佐世保高架橋、門真高架橋東、関東地方整備局／川崎港臨港道路橋などの手持ち工事が概ね順調に進捗し、前年同期比3.4%増の83.6億円となりました。

営業利益は、期首予想に対して計画通り進捗したものの、前年同期に比べて設計変更等による採算改善の織込みが少なかったことなどから、前年同期比48.5%減の3.8億円となりました。



今後の取り組み

受注力・事業遂行力の強化と収益性の向上

新設橋梁および大規模更新・保全関連を含む鋼橋市場全体では、発注量の減少や発注時期の後ろ倒しなどにより、厳しい事業環境が継続しています。更新・保全工事を中心に、新設を含む大型・高難度工事や沿岸構造物など、当社の技術力を活かせる案件に選択的に取り組み、受注の確保と収益性の向上を図ります。併せて、DXによる設計・施工・管理の生産性向上、人材の確保・育成および施工体制の強化を進め、安定した収益基盤の構築を目指してまいります。

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

貸借対照表、キャッシュ・フロー

宮地エンジニアリンググループ株式会社

自己資本比率は26/3末の52.2%から54.6%に上昇

主な貸借対照表の項目

（百万円）

	25/9末	26/3末	26/9末
資産合計	80,606	82,021	77,246
流動資産	55,931	53,795	46,796
固定資産	24,675	28,225	30,450
有形固定資産	15,365	17,887	19,732
無形固定資産	397	436	392
投資その他の資産	8,911	9,900	10,325
負債合計	31,708	32,032	27,839
流動負債	26,665	27,311	23,003
固定負債	5,042	4,721	4,835
純資産合計	48,898	49,988	49,407
株主資本	33,904	34,279	33,328
その他の包括利益累計額	7,744	8,562	8,864
非支配株主持分	7,249	7,147	7,214

売上債権の減少などにより、営業キャッシュ・フローは前年同期から大幅に改善
現金及び現金同等物は前年同期末比で増加

主なキャッシュ・フロー計算書の項目

（百万円）

	25/3期2Q	26/3期2Q	27/3期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲7,276	▲3,484	3,444
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,698	▲1,131	▲2,533
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲879	▲6,160	▲2,093
現金及び現金同等物の増減額（▲は減少）	▲9,854	▲10,775	▲1,182
現金及び現金同等物の期末残高	9,260	5,726	11,188

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

Ⅱ.2027年3月期業績予想と中期経営計画の進捗

中期経営計画　環境認識

- ７月21日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2026」に基づき、「責任ある積極財政」の考えのもと、公共投資においても補正予算の効果もあり、底堅く推移していくことが見込まれている

- 一方で、当社グループの主力である橋梁事業においては、昨年度に引き続き厳しい事業環境が次期中期経営計画（2027～2031年度）期間の前半まで継続するものと予想

- 更新・保全工事が必要となる箇所が増え続けている現状を踏まえ、大規模更新・保全関連は緩やかに発注量が回復していく見込み

- 大阪湾岸道路西伸部や名神湾岸連絡橋などの高難度ビッグプロジェクトが着実に進められているほか、鉄道関連や大空間・特殊建築物においても、引き続き施工難易度の高い首都圏ターミナル駅の再開発事業などが数多く計画されており、中期的には当社グループが飛躍する事業環境であると考えている

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

2027年3月期業績予想

宮地エンジニアリンググループ株式会社

売上高、営業利益および経常利益の通期業績予想を上方修正
年間配当は配当性向が概ね100%となる1株当たり75円を予定

（百万円）

	26/3期		27/3期			
	実績	前年比	25/11公表値	期首公表値	26/11見直し	前年比
売上高	56,659	▲24.2%	57,000	55,000	56,000	▲1.2%
営業利益	4,525	▲50.6%	1,500	2,300	3,000	▲33.7%
経常利益	4,830	▲49.1%	1,600	2,400	3,100	▲35.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,264	▲32.7%	1,300	2,000	2,000	▲38.7%
1株当たり年間配当金（円）*1	97.5	―	検討中	75.0	75.0	▲22.5円
自己資本利益率（ROE）	7.8%	―	3.2%	4.7%	4.7%	―
受注高	50,577	▲29.2%	―	56,000	56,000	10.7%
受注残高	106,413	▲5.4%	―	107,413	106,413	0%

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

定量目標の振り返り(1/5)

◆ 現中期経営計画(2022～2026年度)を公表した2022年５月時点においては、新設関連における重量ベースでの発注量は減少傾向にあったものの、20万tを大幅に下回るとまでは予想せず

◆ 事業規模7兆円の高速道路の大規模更新工事をはじめとする大規模更新・保全関連についても、保全・更新が必要となる箇所が増え続けている状況を踏まえ、堅調に推移していくものと予想

◆ 中期経営計画期間前半においては、難易度の高い新設関連と大規模更新・保全関連などにおいて順調に受注を積み上げ、受注残高が1,000億円を突破

◆ 売上・利益についても堅調に推移し、2025年３月期においては中期経営計画最終年度の利益目標を超過達成

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

定量目標の振り返り(2/5)

◆ 一方で、技術的難易度の高い大規模更新・保全関連における詳細設計や第三者協議の遅れに伴う施工時期遅れなどの影響により、中期経営計画期間後半の売上・利益が落ち込むことが予想されるとして、2024年11月の決算説明会において売上・利益目標値を下方修正

◆ 物価上昇などの影響により、新設関連における重量ベースでの発注量がさらに減少

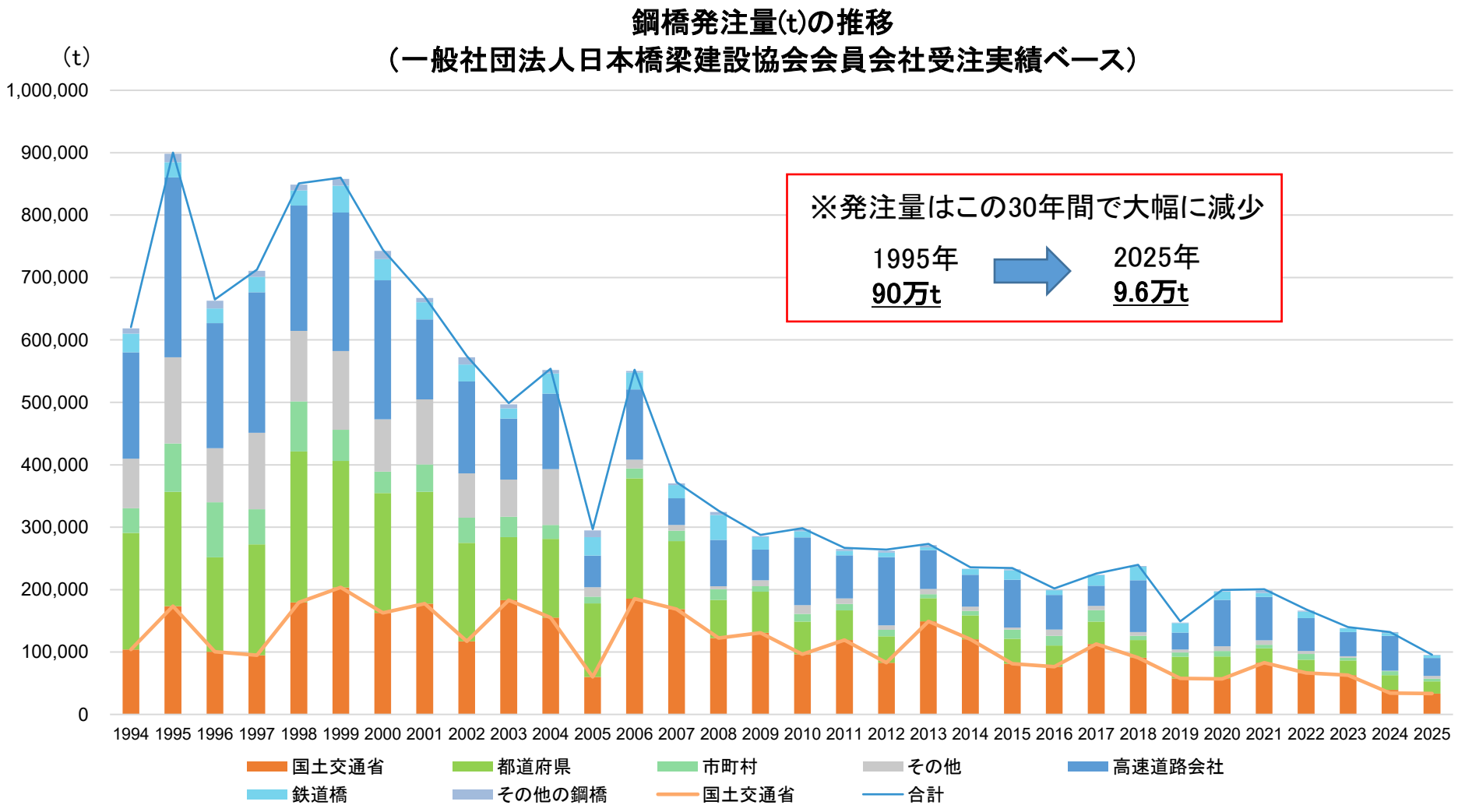
◆ 大規模更新・保全関連においても、既契約工事における追加予算が必要となったことなどの影響により、新規契約工事のみならず、技術提案・交渉方式により既に詳細設計取組中の案件についてまでも、工事規模を縮小・先送りする動きが急速に進展

◆ 激変した厳しい事業環境が次期中期経営計画期間前半まで続くことが予想されるため、2025年11月の決算説明会において、現中期経営計画最終年度の売上・利益目標値を再度下方修正

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

定量目標の振り返り(3/5)

宮地エンジニアリンググループ株式会社

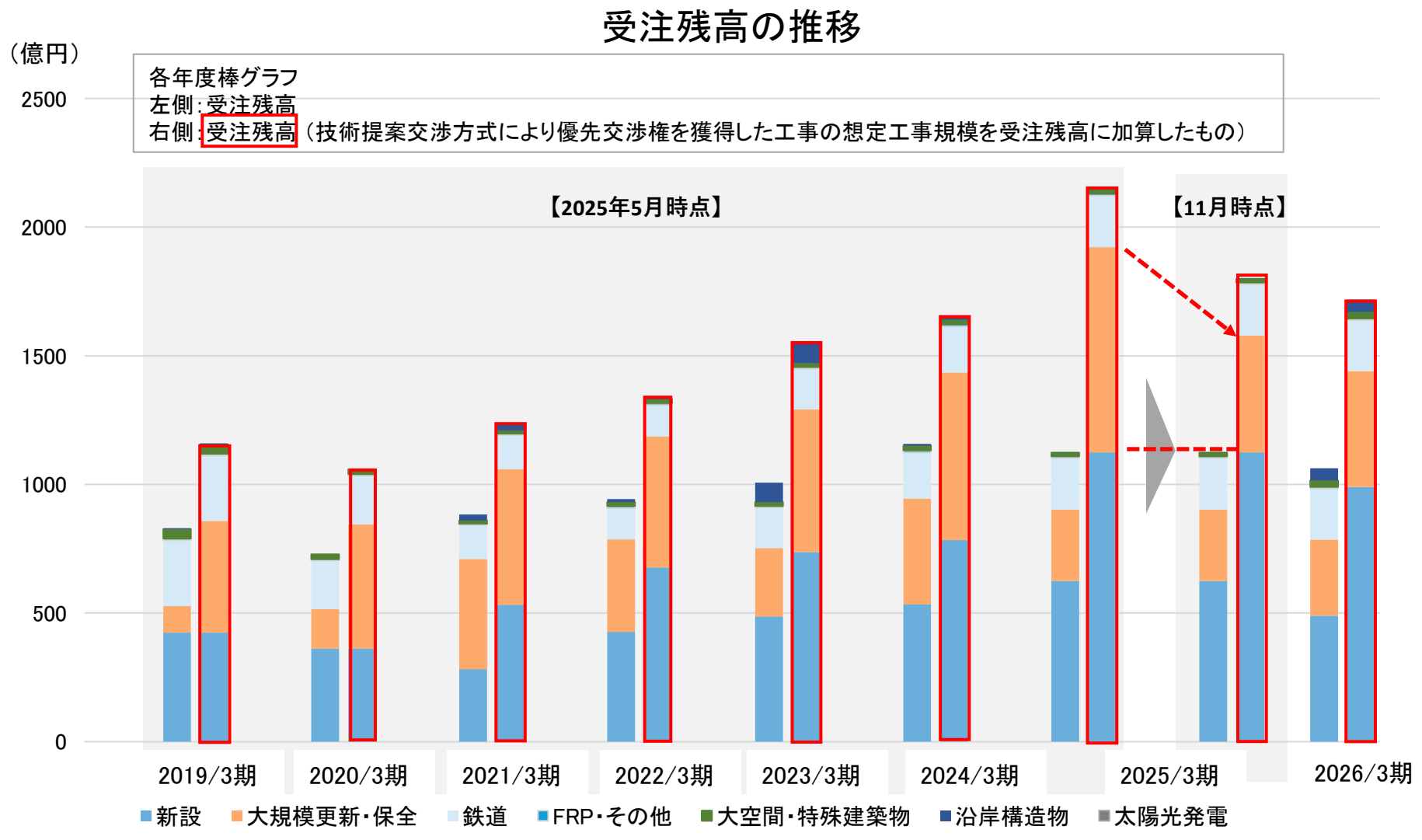


出所)一般社団法人日本橋梁建設協会

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

定量目標の振り返り(4/5)

宮地エンジニアリンググループ株式会社



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

定量目標の振り返り(5/5)

宮地エンジニアリンググループ株式会社

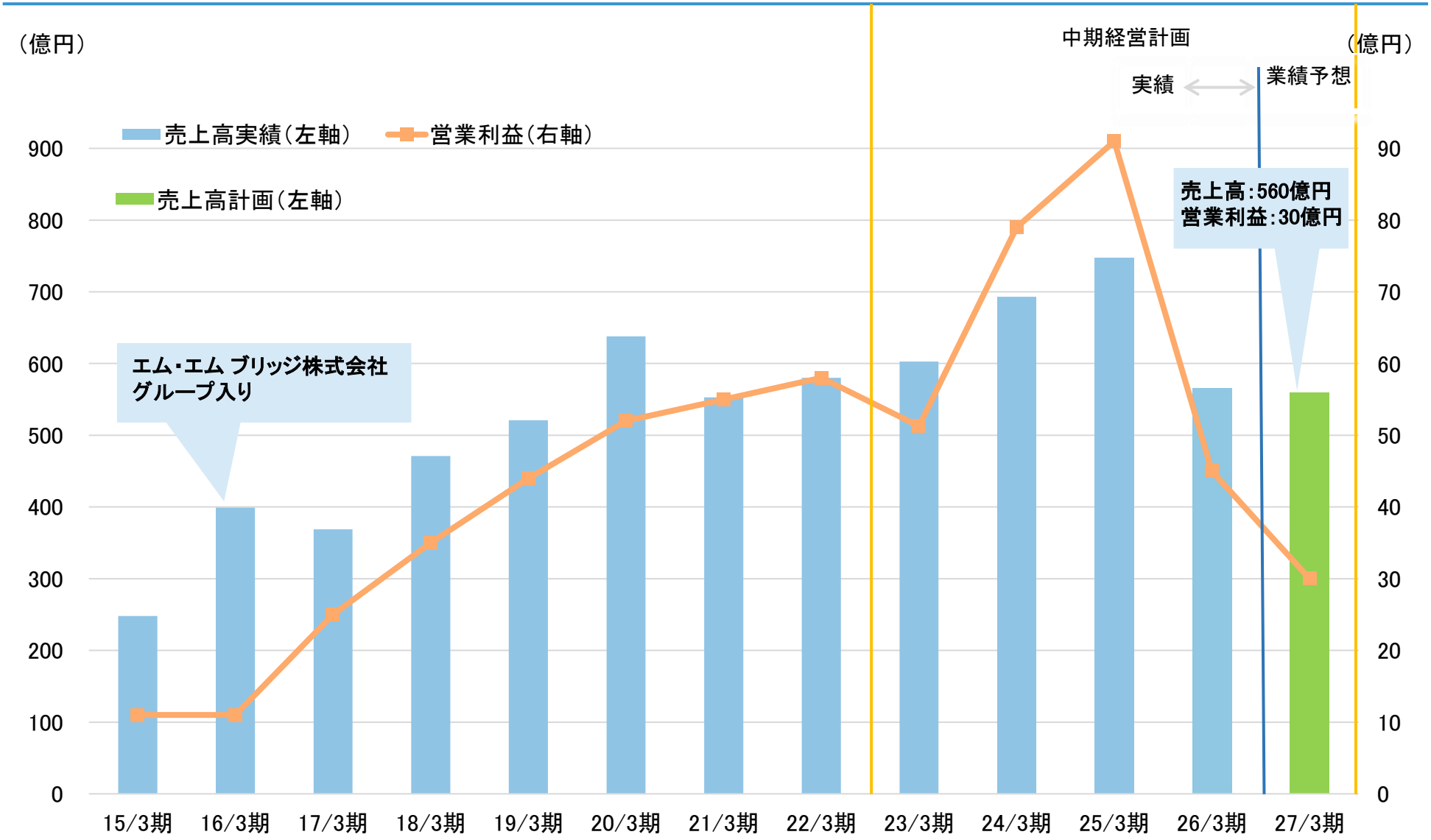
(百万円)

	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	27/3期	
	実績	実績	実績	実績	期首公表値	26/11見直し
売上高	60,279	69,365	74,725	56,659	55,000	56,000
営業利益	5,127	7,904	9,157	4,525	2,300	3,000
経常利益	5,373	7,908	9,485	4,830	2,400	3,100
親会社株主に帰属する当期純利益	3,077	4,354	4,851	3,264	2,000	2,000
1株当たり年間配当金(円)*1	35	96	97.5	97.5	75	75
自己資本比率	56.3%	53.6%	45.0%	52.2%	59.3%	58.5%
自己資本利益率(ROE)	8.9%	11.6%	12.1%	7.8%	4.7%	4.7%
総資本利益率(ROA)	8.6%	11.5%	11.5%	5.6%	3.1%	4.0%

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

売上高・営業利益の実績および見通し

宮地エンジニアリンググループ株式会社



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

株主還元の振り返り(1/2)

◆ 当社は、中長期視点に立った、持続性の高い企業体質の確立と企業価値の向上ならびに株主の皆様への還元を経営の重要な施策と考えると同時に、株主の皆様、ステークホルダーの皆様との共通のコンセプトである持続的成長のための投資など、バランスの良い資本政策を実施することを基本方針としている

◆ この方針に基づき、中期経営計画を策定した2022年３月期より配当性向を30%と定める

◆ 2023年３月の東京証券取引所からの要請に基づき、同年８月に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」を公表し、「配当性向60%を目安として業績に応じた機動的な株主還元を実施し、自己資本の水準を適切にコントロール」するとの配当方針の見直しを表明

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

株主還元の振り返り(2/2)

宮地エンジニアリンググループ株式会社

◆ 現在は、次期中期経営計画期間後半に回復していくことが見込まれている事業環境に備え、当社が保有する高度な技術力や施工対応力にさらに磨きをかけ、力を蓄えるべき時期であり、中長期的に当社が飛躍するために必要な従業員還元と投資戦略を着実に遂行しつつ、財務の健全性を維持することが重要であると考える

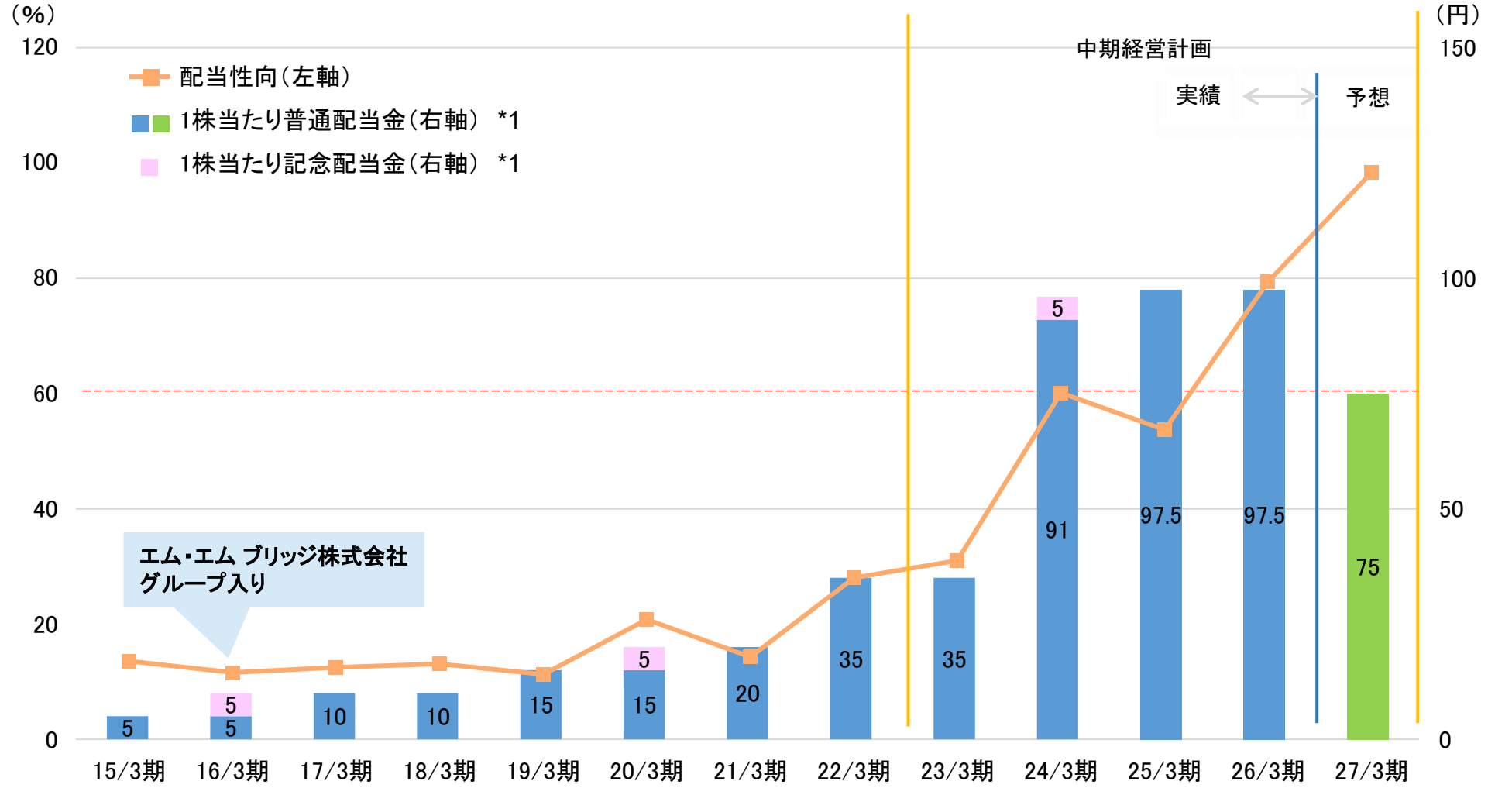
◆ 売上・利益の減少局面においても、当社を支えてくださる株主の皆様に報いるため、目標とする自己資本比率55%程度を維持しつつ、成長に必要な施策を講じた上で残る利益については、株主還元に充てることとする

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

株主還元の実績および見通し

宮地エンジニアリンググループ株式会社

配当予想はバランスの良い資本政策を実施する方針のもと、配当性向概ね100%を予定



*1 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり配当金は分割考慮後で表示

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主要戦略の状況

宮地エンジニアリンググループ株式会社

主要戦略	進捗評価	取組状況	
1）新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画	△	大阪湾岸道路西伸部新設橋梁ビッグプロジェクト（連続斜張橋）の詳細設計業務に鋭意取り組み中であるが、予算等の都合により想定よりも遅れて進捗	質・量共に経営資源を揃える当社の強みを最大限に発揮できるプロジェクト
2）高速道路大規模更新工事の取り込み拡大	△	技術提案・交渉方式で優先交渉権を獲得して詳細設計対応中の案件において、工事規模の縮小・先送りの動きが継続しており、改善に向けて協議継続中	
3）民間の高難度工事への対応	◎	高い技術力が評価されている民間向け高難度工事（鉄道、大空間・特殊建築物、沿岸構造物関連工事）についても、複数の具体的案件に鋭意取組継続中	
4）技術開発の強化	○	ICT、DX関連会社や各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中	
5）事業拡大・効率化に向けた設備投資	○	栗橋機材センターの更新工事完了・関西機材センター移転地の造成が完了・千葉工場新事務所棟の詳細設計が完了し、2026年1月に着工	
6）アライアンス強化	○	ゼネコンとの異工種JVにより大規模更新・保全関連工事の優先交渉権獲得。引き続き複数の案件で異工種JVによる応札対応中	
7）開発商品の拡販	○	FRP検査路などの開発商品について、事業計画に基づき順調に拡販対応中	
8）ESGへの取り組み	○	非財務情報の開示を充実させた統合報告書2026を2026年9月末に発刊 CDPの気候変動レポート2025において「B」スコアを獲得	

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

施策取り組みの状況

宮地エンジニアリンググループ株式会社

ゼネコン等とのJVにより受注した 2026年度に施工中の大規模更新・保全関連工事



市道高速1号他新洲崎工区改築事業（工事）
大林組・大豊建設・矢作建設工業・川田工業
・エム・エム ブリッジ・宮地エンジニアリング
・瀧上工業・駒井ハルテックJV



中央自動車道（特定更新等）
中野橋床版取替工事（2023年度）
中日本高速道路株式会社
富士ピー・エス・宮地エンジニアリングJV



東北自動車道　利根川橋耐震補強工事
東日本高速道路株式会社
エム・エム ブリッジ株式会社・鉄建建設株式会社
JV



（改）都心環状線（日本橋区間）高速6号
向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事
首都高速道路株式会社
JFE・MMB・鹿島・東亜異工種JV



佐世保道路 佐世保高架橋(拡幅)工事
西日本高速道路株式会社
エム・エム ブリッジ・瀧上工業・富士ピー・エス
JV





（改）高速都心環状線（築地川区間）
銀座・新富地区擁壁他工事
首都高速道路株式会社
戸田建設・エム・エム ブリッジJV

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

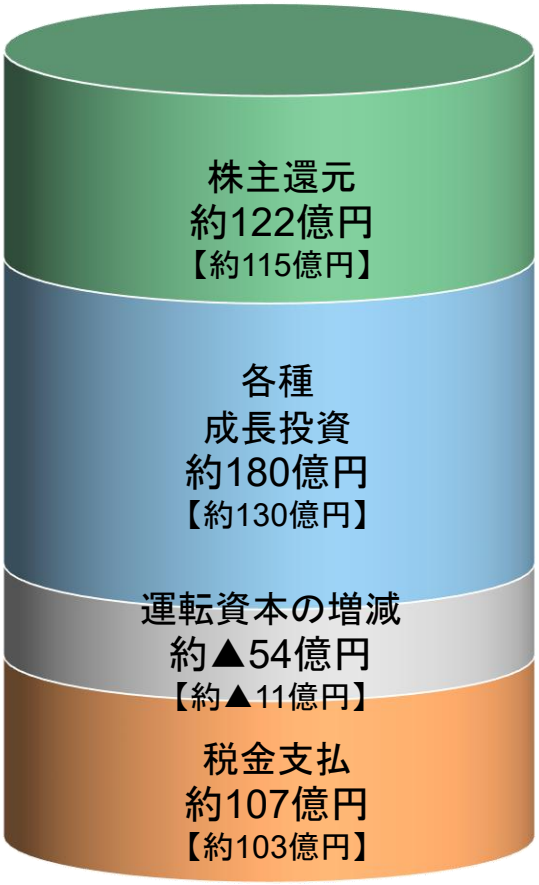
資本戦略

宮地エンジニアリンググループ株式会社

資本効率にも留意しつつ、持続的成長のための投資や一定の資本拡充など、バランスの良い資本政策を進めることを基本

2023/3期～2027/3期合計

EBITDA*1
約355億円
【約337億円】



- ✓ 26/3期は1株当たり97.5円の配当を維持
- ✓ 27/3期は1株当たり75円の配当を予定

- ✓ ビッグプロジェクトや大規模更新工事への対応力強化を図るため、機材センターへ投資
- ✓ 競争力強化と職場環境改善のため、工場の設備更新に加え新事務所棟建設へも投資
- ✓ カーボンニュートラルへの対応も促進
- ✓ 今後も計画的に投資を継続

- ✓ 過去に積み上げた運転資本の活用
- ✓ 資本効率化（適正な自己資本比率の維持）

*1 Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization

（注）【 】内は2023/3期～2026/3期の実績累計

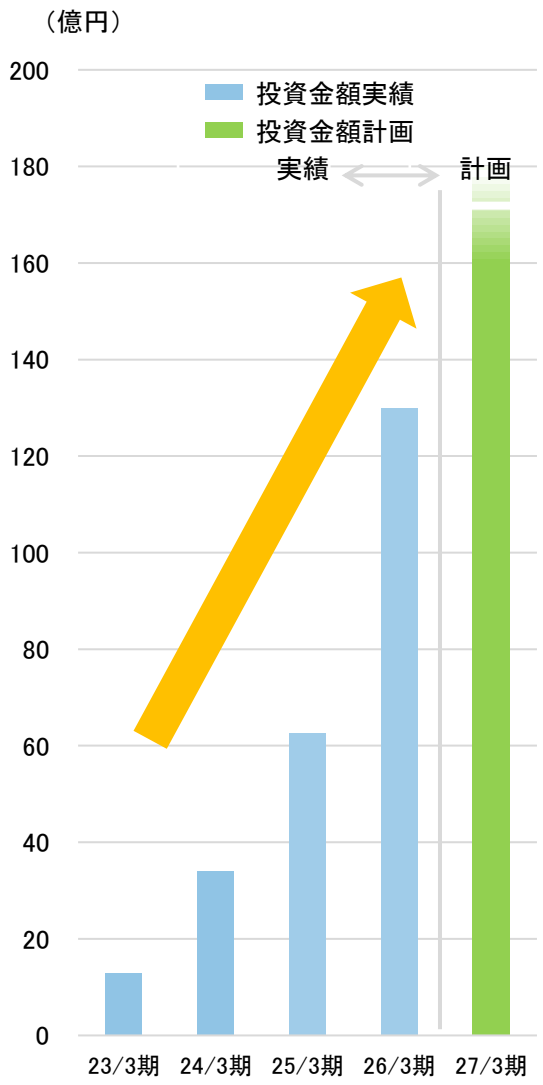
Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

投資戦略(1/2)

宮地エンジニアリンググループ株式会社

		5年間の投資見込み金額	実績累計	投資の内容
生産能力の効率化・適正化	ヤードの整備・スペース効率化	1.5億円	0.2億円	塗装工場再構築は完了 仮組ヤードへの50t吊大型門型クレーン導入完了 その他の設備についても順次更新対応中
	塗装工場再構築	13.0億円	11.8億円	
	工場設備の更新・補修・建屋耐震補強	25.0億円	19.1億円	
	新事務所棟建設	60.0億円	40.8億円	建築確認申請が完了して2026年1月に着工
	機材センターの改修	10.5億円	9.4億円	栗橋機材センターの保管倉庫・新事務棟建築完了
	機材センターの設備更新	17.0億円	25.4億円	ヤード内門型クレーン等の設備を順次更新対応中
	栗橋機材センター保管ヤード見直しの追加	10.5億円	ー	代替地が見つからず、繰越となる可能性が高い
	関西機材センターの移転拡張の追加	12.5億円	12.3億円	敷地の造成が完了し2026年2月に建築着工
カーボンニュートラル対応	2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた具体的な施策の実施の追加	9.0億円	1.3億円	関西機材センターへ太陽光発電設備設置検討中
事業ポートフォリオの拡大・適正化	新規事業開発	11.0億円	9.1億円	10件/年の新技術開発に継続して取り組み中 DXを活用した業務効率化に向けて鋭意対応中
総合エンジニアリングの機能強化	技術開発			
	M&A	10～30億円規模を想定	ー	持続的成長に資する案件があれば前向きに取り組むべく、準備対応中
成長投資合計		180～200億円規模を想定		

投資累計金額の推移



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

投資戦略(2/2)



千葉工場新事務所棟(完成イメージ)



宮地エンジニアリング(株) 関西機材センター建設地
(造成完了後)※赤枠内が建設予定地



千葉工場新事務所棟建設工事の状況



宮地エンジニアリング(株) 関西機材センター
建設工事の状況

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

社会的課題への取り組み

グループとしての社会的課題への取り組み

自然災害に鋼構造スペシャリスト集団として対応

- ◆ 東日本大震災・福島県沖地震　東北新幹線高架橋緊急復旧
- ◆ 熊本地震　熊本城飯田丸五階櫓倒壊防止装備
  第一白川橋りょう　ケーブルクレーンを用いた撤去・復旧
- ◆ 令和2年7月豪雨　熊本県・球磨川流域 橋梁復旧工事
- ◆ 令和8年熊本地震　九州新幹線高架橋緊急復旧
  南九州自動車道応急復旧工事

環境への取り組み

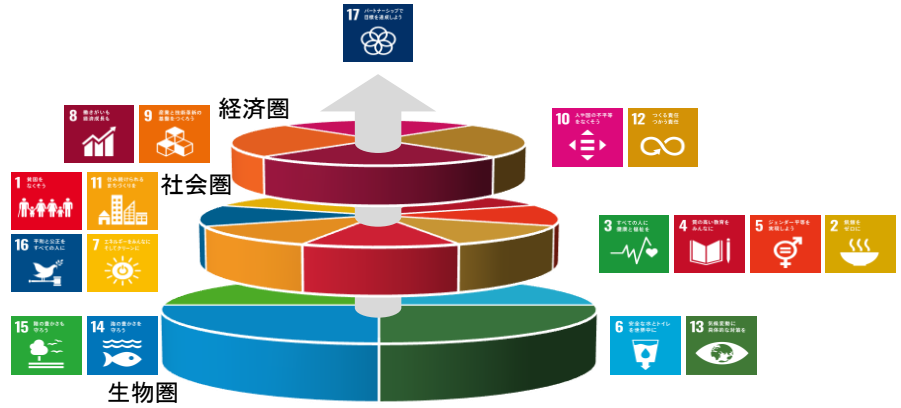
- ◆ 松本工場跡地にて
  太陽光発電設備稼働中
- ◆ 栗橋機材センターに
  太陽光発電設備設置完了
- ◆ GHG排出量（Scope1・2・3）および
  シナリオ分析に基づくリスクと機会を開示
- ◆ 沿岸構造物の電気防食技術を用いた
  サンゴ保全活動（生物多様性への取り組み）

CDP Discloser 2025

CDPの「気候変動レポート2025」において、気候変動分野で「B」スコア、水セキュリティ分野で「B−」スコアを獲得

人材育成・ダイバーシティ推進

- ◆ えるぼし・くるみん認定の取得・維持に向けた取り組み
- ◆ 技術・技能および企業文化伝承への取り組み
- ◆ 人権方針および健康経営方針の策定
- ◆ イノベーションを生み出す職場環境の整備



コーポレートガバナンス体制の整備

- ◆ 2021年6月　監査等委員会設置会社へ移行、指名・報酬委員会設置
- ◆ 2022年6月　取締役を7名（過半数の4名を社外取締役）体制へ移行
- ◆ 2023年6月　女性取締役1名就任（社外取締役）
- ◆ 2025年6月　女性取締役1⇒2名（社外取締役）

株主・投資家との対話強化

- ◆ 2024年4月　IR室をサステナブル経営推進室に改称
- ◆ 決算説明会を含め、IR面談・SR面談の実施を拡充
- ◆ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を開示

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

Ⅲ.次期中期経営計画に向けて

次期中期経営計画（2027～2031年度）に向けて

宮地エンジニアリンググループ株式会社

◆ グループとしての経営管理体制を一層強化し、激変している事業環境下においても安定した黒字体質を確固たるものとするよう努める

◆ グループの中核である宮地エンジニアリング株式会社、エム・エム ブリッジ株式会社がワンチームとなり、持続的な成長と事業の発展を図る

◆ 持てる経営資源を適切に配分した最適経営を行うとともに、技術開発やDX（デジタルトランスフォーメーション）に基づく生産性向上、人材の確保・育成、女性活躍の推進、働き方改革などを進める

◆ グループの持続的成長を担保するための次期中期経営計画の具体的な内容については、現中期経営計画期間中に公表する予定

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

Ⅳ.資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（1）

現状評価（2026/8/6開示時点）

2026年3月期 ROE 7.8%
⇒2025年度の減収減益により、中計目標値の10%を下回るとともに、株主資本コスト（7～8%程度）と同水準まで低下
2026年3月末 PBR 1.07倍
⇒株価は前年度末を下回ったものの、PBRは引き続き1倍超を維持

（百万円）

	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	27/3期予想
売上高	58,002	60,279	69,365	74,725	56,659	56,000
営業利益	5,810	5,127	7,904	9,157	4,525	3,000
親会社株主に帰属する当期純利益	3,406	3,077	4,354	4,851	3,264	2,000
自己資本比率	54.0%	56.3%	54.0%	45.0%	52.2%	目標55%
ROE	10.7%	8.9%	11.6%	12.1%	7.8%	目標10%
1株当たり純資産（円） *	1,226.24	1,304.49	1,469.70	1,535.65	1,615.51	―
期末株価（円） *	865.0	935.0	2,192.5	1,784.0	1,725.0	―
PBR（倍）	0.71	0.72	1.49	1.16	1.07	―

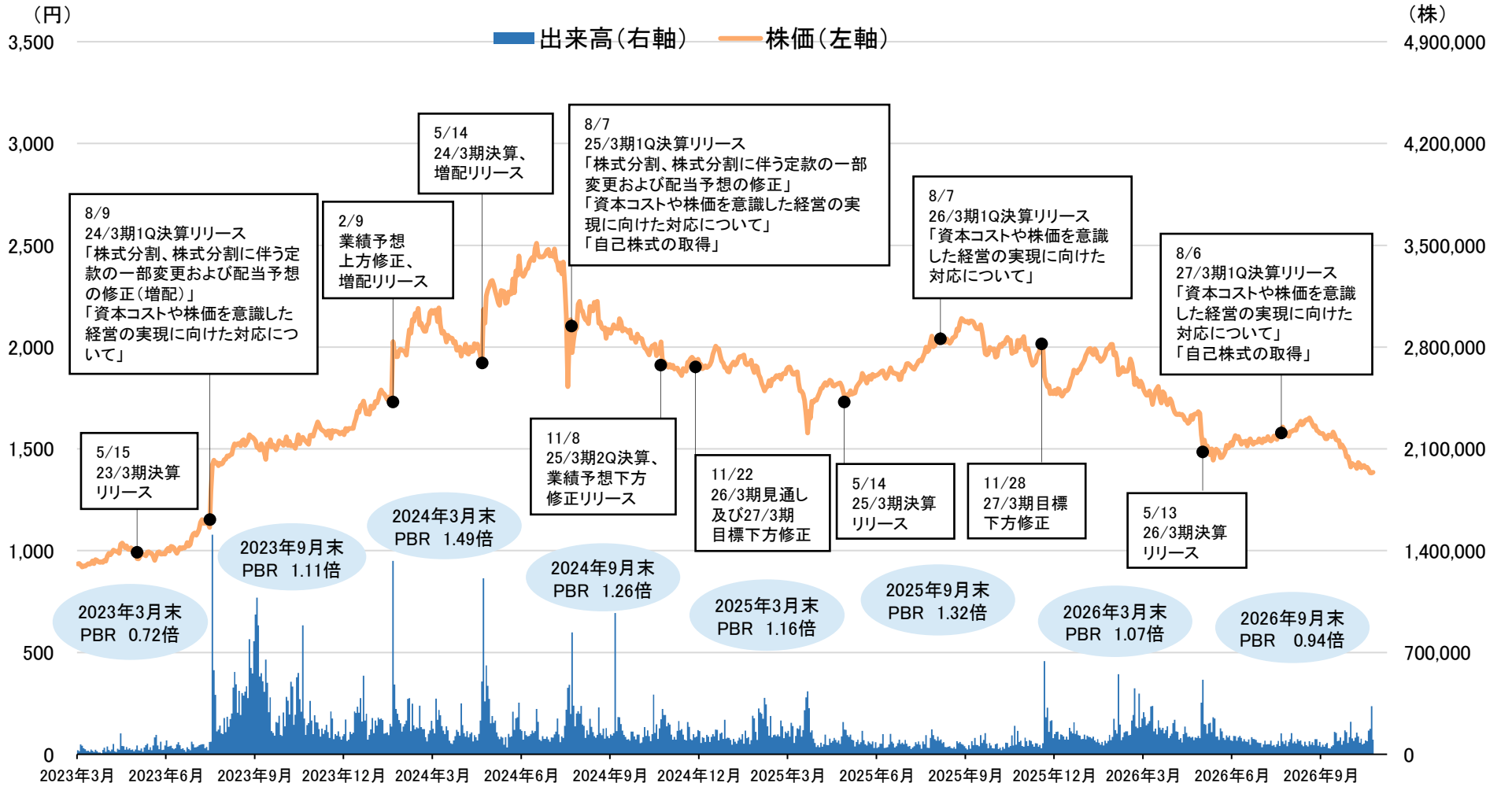
* 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり純資産・期末株価は分割考慮後に修正

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

株価動向

宮地エンジニアリンググループ株式会社

株価・出来高推移



（注）2023年10月1日、2024年10月1日にそれぞれ普通株式1株につき2株の割合をもって分割、株価・出来高は分割考慮後に修正

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（2）

今後の取り組み	
5つの取り組みを通じて、持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図り、ROE10%を目標とし、 中長期的な持続的成長とさらなる企業価値の向上を目指していきます	
（1）次期中期経営計画 （2027～2031年度）の策定	◆ 現中期経営計画の各種施策を着実に推進するとともに、グループの経営管理体制を一層強化し、激変する事業環境下においても安定した黒字体質を確立できるよう努める ◆ 宮地エンジニアリング株式会社、エム・エム ブリッジ株式会社がワンチームとなり、持続的な成長と事業の発展を推進 ◆ 国内鋼橋市場の変化を踏まえ、新設関連工事、大規模更新・保全関連工事、民間工事に経営資源を適切に配分した最適経営の実践 ◆ 技術開発やDXによる生産性向上、人材の確保・育成、女性活躍および働き方改革を推進
（2）積極的なIR活動の実施	◆ サステナブル経営推進室を中心に、株主・投資家との積極的な対話を継続。2025年度は決算説明会2回、SR・IR面談（1on1）計38回実施したほか、工場見学会も開催し当社グループへの理解促進に努めた ◆ 実効性の高い人権方針や持続的成長に向けた健康経営宣言を策定 ◆ 2023年３月期から作成を開始した統合報告書は、毎年内容を更新

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（3）

宮地エンジニアリンググループ株式会社

今後の取り組み	
（3）自己株式取得について	◆ 資本効率の一層の向上および機動的な資本政策の遂行を目的として、2026年８月７日に363,000株、574百万円（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合1.4%）の自己株式を取得
（4）配当政策の継続	◆ 中長期視点に立った、持続性の高い企業体質の確立と企業価値の向上ならびに株主の皆様への還元を経営の重要な施策と考えると同時に、株主の皆様、ステークホルダーの皆様との共通のコンセプトである持続的成長のための投資など、バランスの良い資本政策を推進 ◆ 事業運営や高難度工事の施工、大規模自然災害などのリスクを踏まえ、必要な自己資本比率を55%程度に設定 ◆ 2027年３月期は、配当性向が概ね100%となる1株当たり75円の年間配当を予定 ◆ 自己株式取得を含む総還元性向は130%程度となる見込み
（5）政策保有株式の縮減	◆ 取引関係維持などを目的に政策保有株式を保有し、毎年業績・株価等を多角的に検証し、保有意義が不十分、あるいは資本コストに見合っていないと判断した場合は縮減を進める ◆ 株価上昇の影響により、2026年３月末の政策保有株式の連結純資産に対する割合は17.3%となったものの、次期中期経営計画期間も見据えて計画的な縮減を継続 ◆ 政策保有株式の連結純資産に対する帳簿価額の割合を10%以下に縮減する方針

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

◆ 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

◆ IRに関するお問合せ先

宮地エンジニアリンググループ株式会社
グループ企画管理本部　平岡、山越、大竹
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号
TEL　03-5649-0111
E-mail　meg.IR@miyaji-eng.co.jp

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

Appendix 1 － 株主・投資家との対話の実施状況等について

株主・投資家との対話の実施状況等について

宮地エンジニアリンググループ株式会社

2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）の取り組み	
対話を行った株主・投資家の概要	◆ 国内機関投資家等 SR面談17回、IR面談11回、決算説明会2回、工場見学会1回 ◆ 海外機関投資家等 SR面談3回、IR面談7回
株主・投資家との対話の主な対応者	◆ 代表取締役社長　池浦 正裕 ◆ 常務執行役員企画・管理部長　遠藤 彰信 ◆ 執行役員サステナブル経営推進室長　平岡 輝崇

株主への説明で理解を得られた事項

① 中期経営計画（2022～2026年度）における事業戦略や成長投資などの計画と実績および事業環境を踏まえて2024年11月および2025年11月の決算説明会において見直しを行った達成目標等
② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（2025年度）に基づく資本政策の考え方と実施状況
③ 統合報告書に基づく、過去の歴史を踏まえた価値創造プロセスとそれを実現する基盤の整備状況等

株主との対話で得られた事項や取り入れた事項（前年度までの対話によるものも含む。）

① 統合報告書2025における内容の拡充（2025年９月発刊）
② 実効性の高い人権方針の策定（2025年５月策定）
③ 持続的成長に向けた健康経営宣言の策定（2025年12月策定）
④ 女性取締役の増員（2025年６月より現状の７名中１名から２名へ増員）
⑤ 資本政策の見直し（2026年３月期の年間配当97円50銭の維持等）
⑥ 政策保有株式の縮減
⑦ 取締役交代に伴うスキル・マトリックスの見直し（2025年６月）
⑧ 取締役会実効性評価の拡充（2025年３月期有価証券報告書より開示拡充）
⑨ 執行体制の拡充（2026年４月および６月より実施）

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

Appendix 2 – 会社概要

宮地エンジニアリンググループについて(1/3)

宮地エンジニアリンググループ株式会社



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

宮地エンジニアリンググループについて(2/3)

当社グループの事業会社である宮地エンジニアリングとエム・エム ブリッジは、国土交通省などの官公庁や高速道路会社等から発注される橋梁の製作・施工を主力事業としております



発注者の発注枠内で経営していく受注産業であり、

その発注量は道路インフラ投資への官公庁の予算に左右されます

公共事業の受注は入札で決まるため、計画的に受注をすることができません



受注を平準化して計画生産を行う事が難しく、損益に山谷が発生することがあります

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

宮地エンジニアリンググループについて(3/3)

宮地エンジニアリンググループ株式会社

◆ **主力の新設橋梁事業では**、

高度成長期の橋梁技術発展に大きく貢献した首都高速の**江戸橋ジャンクション**に始まり、
本州と九州を結ぶ**関門橋**や**明石海峡大橋**をはじめとする多くの本州四国連絡橋、
東日本大震災復興のシンボルである**気仙沼湾横断橋**、
東京湾でも特に夜景が美しい**東京ゲートブリッジ・レインボーブリッジ・横浜ベイブリッジ**等、
名だたる**長大橋の設計・施工技術の実績**があります

◆ **新幹線や鉄道上に架かる難易度の高い橋梁建設工事では、**
長年にわたり培ってきた高い技術力と専門の職人集団の技能を活かした現場安全施工で高い評価と絶大なる信頼をいただいております

◆ **「特殊建築物の施工」および「沿岸構造物の設計・製作技術」は実績に基づいた**
高い技術力が要求され、当社グループ以外で対応できる会社は限定されています

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

会社概要

宮地エンジニアリンググループ株式会社

本店所在地	東京都中央区日本橋富沢町9番19号
代表者	代表取締役社長 池浦　正裕
創業	1908年9月
資本金	30億円
連結売上高	566億円 （2026/3期）

宮地エンジニアリンググループ株式会社

100%出資（連結）

宮地エンジニアリング 株式会社 （MEC）

橋梁・鉄骨その他鋼構造物の設計、製作、架設、据付、維持補修、プレストレストコンクリートの設計、製作並びに土木工事の施工、工事管理、鉄骨・鉄塔・大空間構造物組立

51%出資（連結）

エム・エム ブリッジ株式会社（MMB）

橋梁、沿岸構造物等の設計、製造、据付、販売および修理

100%出資（非連結）

株式会社エム・ジー・コーポレーション

鋼構造物の設計・製作・架設、ボルト・溶接材料等の販売、人材派遣業務、他



Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

事業所および活動拠点

宮地エンジニアリンググループ株式会社



宮地エンジニアリング(株) 松本発電所



宮地エンジニアリング(株)
栗橋機材センター





宮地エンジニアリング(株) 札幌営業所

宮地エンジニアリング(株) 仙台営業所
エム・エム ブリッジ(株) 東北営業所

エム・エム ブリッジ(株) 那須機材センター

エム・エム ブリッジ(株) 広島機材センター

エム・エム ブリッジ(株) 富山事業所

宮地エンジニアリング(株) 関西機材センター

宮地エンジニアリング(株) 千葉工場
エム・エム ブリッジ(株) 市原工場
(株) エム・ジー・コーポレーション 本社

宮地エンジニアリンググループ(株) 本社
宮地エンジニアリング(株) 本社
エム・エム ブリッジ(株) 東日本支店

エム・エム ブリッジ(株) 横浜営業所

宮地エンジニアリング(株) 名古屋営業所
エム・エム ブリッジ(株) 中部営業所

宮地エンジニアリング(株) 関西支社
エム・エム ブリッジ(株) 西日本支店

エム・エム ブリッジ(株) 本社
宮地エンジニアリング(株) 広島営業所

エム・エム ブリッジ(株) 長崎事業所

宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所
エム・エム ブリッジ(株) 九州営業所

宮地エンジニアリング(株) 沖縄営業所

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主なプロジェクト実績（長大橋・道路橋）

■過去から脈々と続く高難度のプロジェクト経験により高い技術を蓄積

～1970年代



関門橋（1,068m）

逐次剛結の先端技術で架設

土木学会「田中賞」



首都高速江戸橋JCT

首都高の最難関工事



港大橋

日本一のトラス橋

土木学会「田中賞」

1980～90年代



明石海峡大橋（3,911m）

当時、世界一の吊り橋

土木学会「田中賞」



多々羅大橋（1,480m）

日本一の斜張橋

土木学会「田中賞」

2000年代以降



東京ゲートブリッジ（2,618m）

日本2位のトラス橋

土木学会「田中賞」



有明筑後川大橋

日本初の橋梁形式

土木学会「田中賞」



気仙沼湾横断橋（1,344m）

東日本大震災復興の象徴

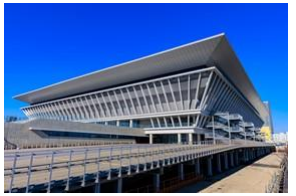
土木学会「田中賞」

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主なプロジェクト実績（鉄道関連・大空間・特殊建築物・沿岸構造物）

宮地エンジニアリンググループ株式会社

■高難度の施工技術を要する鉄道橋建設に数多く参画
■大空間・特殊建築物においても、東京タワーをはじめ多くのプロジェクト経験を有しノウハウを蓄積

	～1970年代	1980～90年代	2000年代以降
橋梁（鉄道関連）	 東海道新幹線江川橋梁	 東海道新幹線箕輪架道橋	 東海道新幹線50K900付近さがみ縦貫道路16号橋
大空間・特殊建築物	 東京タワー(333m)	 神戸ポートタワー(108m)	 バンテリンドームナゴヤ
	 東京スカイツリー（634m）	 大和ハウスプレミストドーム	 東京アクアティクスセンター
沿岸構造物	 南本牧鋼製ケーソン	 東京港海の森トンネル沈埋函	

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

当社グループの強み

宮地エンジニアリンググループ株式会社

大規模案件・高難度案件への参画を可能とさせる業界屈指の総合力

設計・製作 → 計画・架設

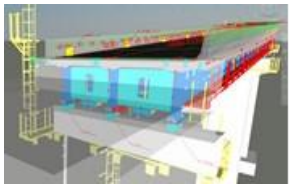
数多くのプロジェクト実績に裏打ちされた確固たる技術力

大規模プロジェクトに投入可能な人的リソース

経営資源を質・量共に揃える当社グループだからこそ持ち得る強み

業界トップクラスの詳細設計力および技術開発力

ICT関連会社と協力して、Click3D、CIM-GIRDER、CIM-SLABの3種類のCIMシステム等を開発



戦略・特殊機材の保有

業界屈指の手延べ機保有量

日本一のアーチ橋を架設したケーブルクレーン設備

例）ケーブルクレーン



急峻な山間部等で通常クレーンの侵入が困難な場所で使用

機材を保有していることだけでなく扱える人材の多さと技術の高さが当社の強み

自社工場保有が可能とさせる製作能力





海上長大橋の大ブロック製作対応も可能

業界有数の生産能力を保有

高技能集団との連携

高度な技術力を有する特殊鳶職集団との連携は事業成立に必要不可欠



職人の外部ネットワークにより高度な工事に対応するリソースを確保

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅰ

宮地エンジニアリンググループ株式会社

本州四国連絡橋



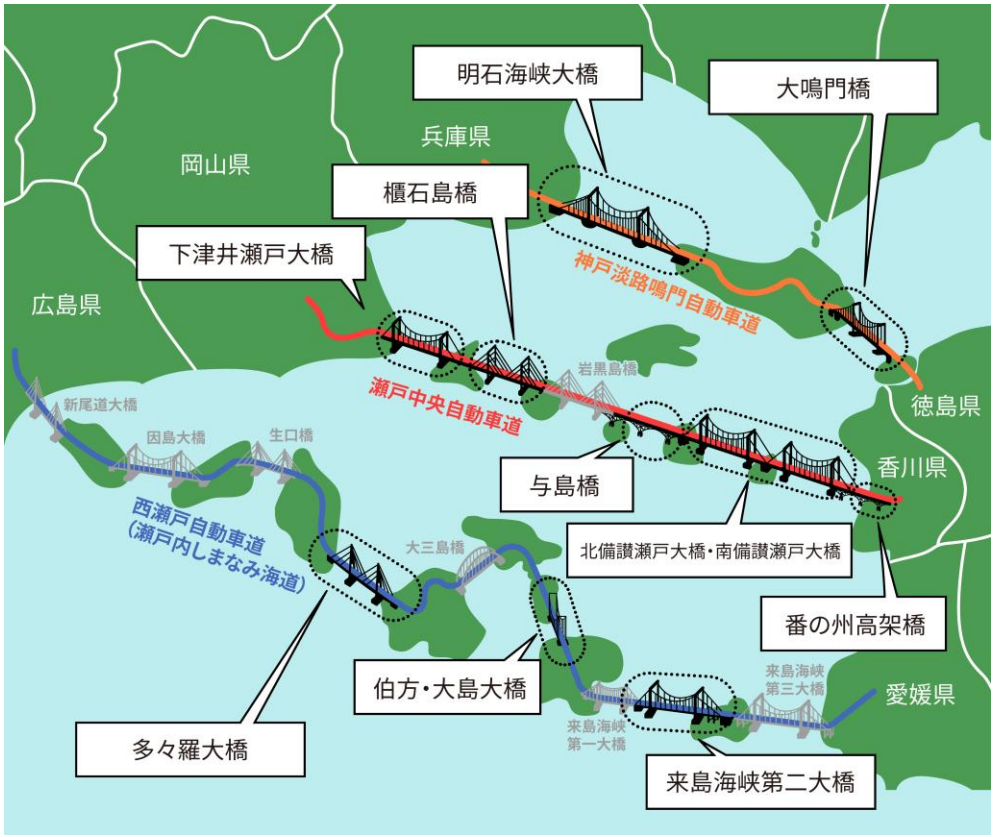
下津井瀬戸大橋



多々羅大橋



来島海峡第二大橋





明石海峡大橋



大鳴門橋



北備讃瀬戸大橋･南備讃瀬戸大橋

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅱ

宮地エンジニアリンググループ株式会社

タワー



東京スカイツリー



東京タワー



福岡タワー



水戸芸術館シンボルタワー



神戸ポートタワー



大分グローバルタワー

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

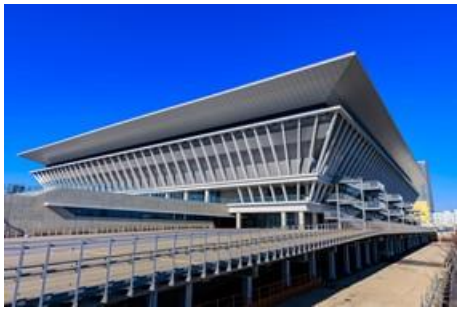
当社が建設に参加した巨大構造物Ⅲ

宮地エンジニアリンググループ株式会社

ドーム等



エスコンフィールドHOKKAIDO



東京アクアティクスセンター



みずほPayPayドーム福岡



クラサスドーム大分



キューアンドエースタジアムみやぎ



バンテリンドーム ナゴヤ



ニプロハチ公ドーム



大和ハウスプレミストドーム



日産スタジアム

Copyright© 2026 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.